

第3部 希望の家の運営

I 令和4年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

公益性の高い法人が運営する施設として地域の方々に支えられながら、利用者の個別性を大切にしたい安心安全で信頼される施設運営を目指しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、3施設のうち2施設で集団感染が発生し1施設は1週間閉所、1施設は1週間在宅支援への切り替えという形で対応しましたが大きな混乱はなく、早期に事態を収束することができました。

事業運営全般で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも少しずつ活動の幅を広げ、利用者の障がい特性に配慮した健康的で楽しい日中活動を提供するよう努めました。

第2 重点項目の総括

1 利用者にあった個別活動などの充実

集団での活動のほか、個別性に配慮した日中活動を行い、利用者が自身のペースに合わせて社会性を身につけたり、作業能力を向上したり、興味関心を引き出したりできるよう工夫を重ねました。仕事をして自分で得た収入で欲しいものを手に入れる、といった働く喜びを求め方、誰かの役に立つこと、感謝されること、役割を持つことといった他者や社会との関係性の中で得られる充実感を求める方、安心できる空間でリラックスした時間を過ごしたい方、とにかく身体を動かしたい方、コミュニケーションを楽しみたい方など、通所のモチベーションも多様であるため、可能な限り本人の意思を尊重した個別支援計画を作成し、ご家族や関係機関とも共有した上で支援目標を設定し、チーム支援を進めました。

2 地域との交流の促進

従来とは形を変えた地域のつどいを開催したり、コロナ禍で中止となっていた自主製品の販売会が再開したり、少しずつ地域との交流機会を増やすことができました。また、企業や市民活動団体から作業依頼を受けるなど生産活動を通したつながりも広がっています。特別な何かを行うというより、日常活動へのプラスアルファや利用者が楽しみながら参加できるような交流機会を設けることで、施設への理解、障がい理解が深まっていく取り組みを今後も続けていきます。

また、広く市民の方々に施設のことを知っていただく大切なツールであるホームページを大幅に刷新しました。写真を多用し、施設の雰囲気や活動の様子がより伝わるような構成となっています。本場では、施設の外壁面に設置した簡易な掲示板に、お知らせやニュースを掲示して、地域のみなさまにメッセージを発信する取り組みもはじめています。

3 職員の支援力の向上

朝夕のミーティング時間を活用してミニ勉強会を行ったり、養成機関が実施する外部研修に参加し、支援力の向上に努めました。また、三施設合同で研修を開催し、「適切な距離感のある人間関係」をテーマに日頃の支援を見直した結果、応用行動分析を取り入れ、視点を変えた支援に取り組むなど、学びを実践に活かしています。

II 個別事業

第1 調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	利用
(1)	調布市希望の家運営受託事業	寄他		市	○

結果の概要

- コロナ対策として、マスクやフェイスシールドの着用、アルコール消毒、食事の座席配置等、感染予防に取り組んでいたが、本場にて12月上旬にコロナ感染が広がり、利用者・職員合わせて16名が陽性となった。月曜から金曜の5日間、施設を閉鎖したのち、徐々に回復者が増え、重症者は特に出ない。
- 1月下旬には、本場にて利用者が車内で嘔吐したのち、職員が嘔吐物処理と消毒を行ったが、その後、利用者・職員合わせて4名が「胃腸炎」の症状となり、数日休んで回復した。その後、施設内での次亜塩素酸やアルコールでの消毒回数を増やした。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の家族と対面での面談も徐々に増えて、顔を合わせて、施設内の様子も見学し、信頼関係作りと情報交換を行った。
- コロナ渦のなか、感染予防を工夫しながら各種イベントを開催し、利用者・家族・関係者・地域住民との交流できる企画を実行した。「夏祭り」「成人を祝うつどい」等。

1 利用人数

結果の概要

- 調布市希望の家は利用者25人→24人。1人が短期入所から滞在型入所施設へ。
- 調布市希望の家分場は昨年度から増減なく、利用者11人。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
調布市希望の家	利用人数(人)	25	25	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	291	24.3
	開所日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	15	19	19	22	238	19.8
	のべ出席人数(人)	438	420	485	435	430	437	442	436	310	382	403	474	5,092	424.3
	出席率(%)	88	88	88	91	81	91	92	91	86	84	88	90		88.2
調布市希望の家分場	利用人数(人)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132	11.0
	開所日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243	20.3
	のべ出席人数(人)	189	177	211	184	199	190	179	185	190	166	178	205	2,253	187.8
	出席率(%)	86	85	87	84	82	86	81	84	86	79	85	85		84.3

利用者年齢構成等（令和5年3月31日現在）

年 齢	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19歳	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
20～29歳	8人	4人	12人	0人	3人	3人	15人
30～39歳	4人	0人	4人	2人	0人	2人	6人
40～49歳	2人	1人	3人	1人	0人	1人	4人
50～59歳	1人	0人	1人	3人	2人	5人	6人
60歳～	0人	4人	4人	0人	0人	0人	4人
計	15人	9人	24人	6人	5人	11人	35人
平均年齢	31.9歳	44.7歳	36.7歳	47.2歳	37.6歳	42.8歳	38.7歳

利用者障害支援区分構成（令和5年3月31日現在）

障害支援区分	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	合計	男	女	小計	合計
区分1	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分2	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分3	0人	3人	3人	0人	0人	0人	3人
区分4	4人	2人	6人	2人	1人	3人	9人
区分5	6人	1人	7人	2人	2人	4人	11人
区分6	5人	3人	8人	2人	2人	4人	12人
計	15人	9人	24人	6人	5人	11人	35人

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 各教室活動や作業療法活動等、専門講師による活動を継続的に行うことで、健康維持向上や生活リズムの安定につながった。
- 健康維持のため、ラジオ体操やウォーキング等の運動の機会を提供した。
- 昨年度に引き続き、週2回、会議室を利用し、ウォーキング・サーキットトレーニングを行うことで、健康維持だけでなく、生活にリズム感が生まれている。（本場）
- ハロウィンやクリスマス、節分など季節を感じながら行う活動は参加する利用者の表情もよく、楽しめる機会となっている。

実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝体操	本場：週1回 分場：毎日
ウォーキング	不定期・1時間～2時間
フィットネス	本場：週2回 ウォーキング・サーキットトレーニング

	分場：週1回 輪投げ、ボール投げ、マット運動等
体操教室	本場：月2回・2時間（30分間×4グループ） ストレッチや筋トレが中心の活動体力や年齢を考慮したグループ別で行っている 分場：月1回1時間 前半にストレッチ、後半にダンス等を行っている。
水泳教室	分場：今年度より、希望の家深大寺の水泳教室に少人数ずつ、交代で参加した。

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月1回・1時間
ジャンベ教室	月2回・20分 打楽器の演奏
運動会	福祉作業所等連絡会主催運動会に参加【令和4年度は事業中止】
音楽鑑賞会	11月9日にプロミュージシャンを招いて実施。
リフレッシュ活動	少人数のグループに分かれ、外食を伴う外出活動を行った。
年度末お楽しみ企画	本場・分場は合同で開催。 3月10日に本場の2階にてクラウンじんごろう氏を招いてジャグリングとマジックのショーを実施。
季節行事および出前給食	偶数月と季節行事の時期に出前給食を取り、外食活動の代替とした。

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月1回・1時間程度 作業療法士による運動機能維持等の活動。

分析・課題

- 利用者の年齢は10～70歳代の幅広さがあり、年齢層や体力面、特性・相性に応じた利用者のグループ分けによるプログラムの検討が必要となる。
- 体重の増加が課題となる利用者が多い。各種教室の他、ウォーキングやフィットネス活動を日常的に取り入れ、運動量を確保している。
- コロナの感染状況を踏まえながら外食を伴うグループ活動を行った。冬季の実施となったため、天候や道路状況の判断を要した。利用者の希望も強いことから、時期を考慮して実施できるとよい。

3 生産活動

結果の概要

- 企業受注では、これまで同様、榮太樓総本舗の和菓子の梱包、六和精工より部品袋入れ作業等を受注している。
- 自治体からの古紙回収・公園清掃、封入等の受注は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングを実施した。
- 自主製品販売の機会は、徐々に増えていき、売り上げも伸びてきた。利用者の能力を引き出した新製品「レターセット」等の開発など、商品も変化してきた。
- 地域の団体からは、昨年に引き続き、フードバンク調布より食品運搬業務を受託している他、学生服のリユースを行っているさくらやからも衣類の補修作業を受注している。

実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、部品袋入れ、衣類の補修作業
自治体からの受託	封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、ごみカレンダー、地域活動情報誌）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリ、くるくる希望の虹、レターセット等
常設委託販売先	総合福祉センター
イベント販売	本場の夏祭り、福祉まつり、各種イベントでの販売参加

分析・課題

- 利用者の「細かい絵」を描く才能を活かした「レターセット」等の商品開発ができた。また、その絵は“歳末助け合い運動”のポスターにも採用された。
- 室内作業の「榮太樓」「六和精工」は繁忙期と閑散期があり、先を見通した作業量の調整が重要となっている。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供している。肉禁やアレルギー食、きざみ食等、個別の対応も行った。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
出前注文	月1回、市内店舗より弁当等の出前を注文。
カレーの配達	月1回、市内のかれーやより配達。

分析・課題

- 利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。
- 出前注文により、普段とは違った食の楽しみを得る機会を設けた。

5 健康診断、健康管理

結果の概要

- 健康相談と合わせて問診（本場7回・分場3回）を実施し、必要に応じて医師・利用者・職員・家族と情報共有し、医師からのアドバイスを把握した。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の状態推移を把握した。
- こまめな手指消毒の促しや毎日の検温、施設内の換気等を行った。
- 本場にて、嘔吐物処理の訓練を1回行った。

- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、定期的な歯科受診のアドバイスを受けた。
- 健康相談は利用者及び家族にも同席を勧め、困りごとを相談し、課題を共有する機会となった。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断（多摩川病院）	5月24日／施設内で身体測定、検尿、胸部X線、視力、血液検査、HBs 抗原抗体検査、HCV 抗体検査、クレアチニンを実施。40歳以上を対象に、眼底、心電図、腹囲検査を実施。 6月10日／40歳以上を対象に通院し、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種 本場：11月8日 分場：10月24日
歯科健診（調布歯科医師会）	本場：7月22日 分場：7月15日
聴診、健康相談（嘱託医）	本場年7回・分場年3回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス
PCR検査	施設内で実施 本場：6月17日、9月16日、10月14日 分場：6月17日、9月16日、10月14日

分析・課題

- コロナ渦が収まっていくなかでも、高齢化や重症化リスクの高い利用者が多いため、あらゆる感染症対策を行っていく必要がある。
- 職場内勉強会や嘱託医との相談同席等によって、医療に関する知識を習得する機会を作っていく必要がある。
- 毎月の健康チェックや健康診断結果から、過去との比較や数値化したものを家族とも共有し、生活習慣病予防のための意識を向上させる。

6 当事者活動の支援

結果の概要

- 利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。
 - *利用者自治会（利用者で構成する会）
オンラインを活用し、自治会では3施設の活動報告等を行い、情報交換や顔合わせの場となった。
利用者自治会長は運営委員としても活躍した。
 - *家族連絡会
昨年までは新型コロナウイルス感染拡大への配慮から中止していたが再開した。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	月1回（3施設合同）／行事や活動の計画等

家族連絡会	年2回／情報交換、意見交換等
-------	----------------

分析・課題

- 利用者自治会については、引き続き、3施設間をオンラインでつないで、交流した。
- 施設側の発信である「家族連絡会」と家族の自主組織である「家族会」を前半後半に分けて、数年ぶりに2回開催し、家族とも顔の見える関係で、話し合う機会を持てた。

7 送迎事業

結果の概要

- 自力での通所が困難な利用者を対象に実施した。
- 利用者の体調や安全面を考え、迅速な送迎サービス対応に努めた。
- 配慮を要する利用者やショートステイを利用する利用者に個別送迎を実施した。
- 車内の消毒実施を徹底し、感染予防のためビニールシートの設置を行った。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

- 第三者委員2人と苦情受付担当者1人、危機管理責任者1人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。
- より良い施設運営に向けた取組として、毎日の振り返り時に出しあった意見（ヒヤリハット）を「気付きメモ」として記録し、第三者委員会に向けて分析を行った。
- 効果的だった支援や利用者の成長が感じられた場面等の「ニヤリホット」についても記録を残し、今後の支援に活かせるようにした。今年度は様々な会議等でも積極的に共有することを進めた。

実績等

- 第三者委員会を10月、3月に実施。事業実施状況、第三者評価の報告、事故・苦情や気付きメモの報告を行い、課題解決に向けて意見交換した。
- 気付きメモの報告については、代表的な事例や、特に重点的に取り組んだ事例について発表し、具体的な支援状況も共有したうえで意見を頂いた。

分析・課題

- 第三者委員より、以下のような意見を頂いた。
 - ・利用者のけがに関する報告が数件あった。職員の対応としては、状況をきちんと整理したうえで、正しい状況を報告することが大切である。
 - ・事故やヒヤリハットの対応ばかりに意識が向いていると、気持ちに余裕がなくなってくる。有効だった支援や、利用者の成長に関する場面に意識を向けて、職員間で共有していくことで、前向きな支援につながっていく。

- ・他害や自傷等の行動があった場合、対処療法的に制止する等の支援だと限界がある。原因分析と構造化を含めた対応の統一が必要である。
- ・特定の職員にしかできない支援には限界がある。実施されている支援が「手順を覚えれば誰にでもできる支援になっているか」が大切である。
- ・コロナ禍の状況でも、少しずつこれまでの活動を再開したり、新たな取り組みを始められていることは良い。

(2) サービス評価

結果の概要

○希望の家独自のアンケート調査票を用いてサービス評価を実施した。集計を行い、第三者委員の講評を受けた。

事業評価

項目	内容
利用者アンケート調査	利用者本人へ書面によるアンケート調査。本人が答えるか、家族が本人の気持ちを推察して回答。
家族アンケート調査	家族へ書面によるアンケート調査。
第三者委員会	職員、第三者委員による講評会。

分析・課題

- 利用者・家族ともに概ね現在の希望の家のサービスに満足しているという評価を得た。
- 利用者、家族から出された自由意見等に対し、今後の希望の家としての対応を検討したうえで回答していく。

(3) 運営委員会

結果の概要

○7月、11月、2月の年3回実施した。希望の家深大寺運営委員会との合同開催とした。

実績等

調布市希望の家運営委員会委員構成

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	日比生 信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）
委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	野口 和代	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	渡辺 哲男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委員	能登 和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	小島 秀人	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委員	田中 賢介	社協評議員

委員	橋本 ゆかり	社協理事
----	--------	------

※希望の家深大寺運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

令和4年度 調布市希望の家及び希望の家深大寺合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	7月13日	委嘱状交付・自己紹介、委員長の選出、令和3年度事業報告、希望の家3施設の近況報告、希望の家家族会について	12人
第2回	11月2日	令和4年度上半期報告、令和5年度予算案及び体制の想定について、令和4年度上半期『気付きメモ』取組報告について	13人
第3回	2月22日	希望の家3施設の近況報告、令和5年度希望の家事業計画（案）について、令和5年度予算について	11人

分析・課題

○事業内容、職員育成、広報の在り方、予算案など、各委員より様々な視点での意見をいただき、実際の運営に反映させた。他所で見聞きした希望の家に対する評価等について意見をいただいたこともあり、そのことで今後の改善にも繋がった。

○日中の様子を見たことのない委員もいらっしゃるため、希望の家行事に参加していただく機会を提供するなどを通して現状を知り、より意見をいただけるようにする必要がある。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

○オンラインでの研修に積極的に参加した。

実績等

研修会等	主催
ファシリテーション研修	東京都社会福祉協議会
新任職員研修	東京都社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター等養成研修(基礎編)	東京都社会福祉協議会
強度行動障害支援者養成基礎研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
障害のある方の摂食嚥下および食べ方の発達支援について	障害者施設等歯科保健研修会
てんかん基礎講座	日本てんかん協会
安全運転講習	トヨタドライビングスクール
カスタマーハラスメント研修	東京都福祉人材センター
コミュニティ・オーガナイズングを学ぶ	東京都福祉人材センター
強度行動障害の理解	東京都福祉人材センター
リスクマネジメント研修	東京都福祉人材センター

虐待防止研修	法人内研修
障がい者の家族支援～きょうだいの困難・生きづらさについて考える～	法人内研修

分析・課題

○職員自らが発案する「ミニ勉強会（動画視聴等）」や、受けた研修の内容をさらに深く話し合う機会をつくった。今後も職員が多様な視点を持って知識を習得できるよう、様々な研修を考えていきたい。

(5) 事業・建物管理

○調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。

(6) 危機管理体制の整備

結果の概要

○衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や環境整備に努めた。

○新型コロナウイルスへの対応として、調布市と協議しながら、人との接触を最低限にするための事業・行事等の縮小や、消毒・換気の強化等を行っている。

○分場では毎月1回、火災や地震を想定して、避難訓練を実施した。

9 地域への働きかけ

結果の概要

○コロナ渦でも感染対策を取りながら、夏祭りを開催し、他事業所2カ所からのキッチンカーでの販売、自主製品の販売、夏休み中の地域の子どもを集めてゲームコーナーの実施など、工夫を凝らしながらイベントを開催した。

実績等

活動名	内容等
夏祭り（地域のつどい）	8/5(金)に実施し、地域の方々が来所した。
季刊誌の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設等に配布した。
小地域交流事業への参加	【事業中止】
災害時の地域貢献	災害時については、障がい者等に配慮した避難場所としての施設活用を市と協議している。
会議室(本場2階)の貸し出し	地域住民への貸し出しを実施。

分析・課題

○コロナ渦前のような、日曜開催の「地域のつどい」から、平日開催の「夏祭り」に形を変えて実施している。大規模な行事開催による職員の負担軽減や休日出勤の困難さの問題解決をはかっている。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 個別支援計画に基づき、利用者の年齢や体力面、特性に応じた、きめ細やかな計画で日中活動や作業を行った。モニタリング、個別支援計画の振り返りを行い、利用者家族との面談、訪問、電話でのやり取り等を実施した。
- 関係機関と互いに連絡調整をしながら、医療・健康面の情報共有、新しくグループホーム利用が始まる人の送迎の調整など、細かく丁寧に対応した。
- 活動で作上げた作品を、講師の協力を得ながら、市民活動支援センターはばたきでの「手作り展」でお披露目した。
- 1日かけてグループで外出外食をする「リフレッシュ活動」の再開など、利用者の楽しみである活動も企画・実施した。
- 大きな行事「成人を祝うつどい」「音楽鑑賞会」や季節ごとの行事「ハロウィン」「節分」など、全体で楽しめる行事を企画実施し、無事に成功することができた。

分析・課題

- 「手作り展」は毎年好評だが、展示の見せ方、広報の工夫等が課題である。
- 他の福祉サービスや医療、グループホーム等の関係機関との連携を強化し、利用者・家族の思いを尊重しながら、情報提供を進める必要がある。
- 利用者家族の高齢化が著しいため、家族も含めた見守りや緊急対応が今後にも必要になる。

(2) 広報

結果の概要

- 個人情報保護を徹底するため、広報紙等での写真利用は本人及び家族の同意を得た上で行った。
- 令和4年度は季刊誌を4回発行し、利用者の手書き文字や感想を取り入れた。また、写真をふんだんに使い利用者にも見やすいよう紙面を工夫した。
- 施設ホームページは、写真を増やすなど大幅にリニューアルを行った。
- 本場では屋外に掲示板を取り付け、近隣の人が活動や雰囲気が伝わるよう実施した。

実績等

種 類	回数／内容
月のお知らせ	月1回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ
季刊誌	年4回／行事や活動、販売会の売り上げ報告等
ホームページ（社協 HP 内）	リニューアルを行った。

分析・課題

- 本場の屋外掲示板の定期的な内容変更を続けていくこと。
- 地域への施設理解を広めるために、ホームページにて季刊誌を閲覧できるようにする等、積極的にネット媒体も活用した。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- 引き続き、近隣のボランティアに利用者支援や作業・活動をサポートしていただいた。
- 大学生等の実習受け入れは積極的に行い、慈恵医科大学の医学部生、社会福祉士等の現場実習を受け入れている。
- けやきの森学園からの利用者実習の申し入れは無く、実習は無かった。

実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1人	縫製
日中活動	3人	作業補助等
園芸作業	1人	作業の手伝い、園芸
体操教室・音楽教室・ジャンベ教室・アート教室・パソコン教室等	6人	教室講師等
慈恵医科大学及び社会福祉士実習生	5人	
府中けやきの森学園からの実習生	0人	
合計	16人	

第2 希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
		自主 他	補助 市都	委託	利用 ○
(2)	希望の家深大寺管理運営事業				○

結果の概要

- 12月上旬に新型コロナウイルスの施設内集団感染が発生し、1週間の在宅支援期間を要することになったが、その期間をもって早期に収束することができた。以降は利用者、職員ともに感染者は出ることなく、コロナ禍以前のような日常がほぼ戻りつつある。
- 令和4年度内で5名の利用者の退所があり、介護給付費の大幅な減収となった。産休職員が出たことなどもあり、当初予定より人件費が抑えられたことで、支出が収入を上回ることにはならなかった。
- 経験を重ねた職員が増えてきた中、支援の幅が広がり、コロナ禍以前に行っていた小グループでの飲食を伴う外出活動（リフレッシュ活動）も再開でき、また、施設全体でレストランに行くなどの新たな活動や試みも生まれた。
- 利用者一人一人の状況・状態に合わせた新たな課題活動や運動機会が創出された。
- 事故・ヒヤリハット・にやりほっと事例を月毎に職員全体で振り返る機会を設け、支援業務における必要な視点の構築・継続を図るように努めた。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の生活課題に対しても家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。

1 利用人数

結果の概要

- 4月1日に新規利用者が1名入所し利用者20名でスタートした。
- 4月1名（入所施設移行）、5月1名（長期入院→その後死去）、12月1名（死去）、3月2名（入所施設移行）、計5名の利用者が退所となった。
- 3月27日に新規利用者が1名入所し、最終的には利用者16名となった。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数(人)	20	19	18	18	18	18	18	18	18	17	17	18		18.1人
開所日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243	20.3日
のべ出席人数(人)	357	317	368	312	333	302	322	323	254	282	294	323	3787	315.6人
出席率(%)	89	88	93	87	84	84	89	90	71	87	91	82		86.2%

利用者年齢構成等（令和5年3月31日現在）

年齢	男	女	小計
～19歳	0人	0人	0人
20～29歳	6人	4人	10人

30～39 歳	3 人	1 人	4 人
40～49 歳	2 人	0 人	2 人
50 歳～	0 人	0 人	0 人
計	11 人	5 人	16 人
平均年齢	31.8 歳	24.6 歳	28.9 歳

利用者障害支援区分構成（令和5年3月31日現在）

障害支援区分	希望の家深大寺		
	男	女	合計
区分1～3	0 人	0 人	0 人
区分4	0 人	1 人	1 人
区分5	4 人	0 人	4 人
区分6	7 人	4 人	11 人
計	11 人	5 人	16 人

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 専門講師によるダンス教室、音楽教室、ジャンベ教室、水泳教室、作業療法活動において、各利用者が参加しやすいよう、グループ構成、活動時間等にも配慮して行った。
- コロナ禍で中止していた行事を再開。規模を縮小したものもあったが、当日は利用者の笑顔もみられ、大きな事故もなく実施することが出来た。

実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝のラジオ体操	毎日朝・5分
ウォーキング	一人週1回以上の実施
ダンス教室	月2回・1時間×2チーム（講師活動）
水泳教室	月1～2回程度・40分×2チーム（講師活動、4月～11月に実施）

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月2回・1時間（講師活動、ピアノ伴奏による合唱・合奏）
ジャンベ教室	月2回・1時間（講師活動、みんなで打楽器を自由に演奏）
運動会	【事業中止】
音楽鑑賞会	11月9日にプロミュージシャンを招いて実施
年度末お楽しみ会	調布市内飲食店（クリスマス亭）にてお茶会を実施
リフレッシュ活動	一人1回・11、12月に実施／目的別に小グループでの1日外出活動を実施

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月2回・1時間×2チーム（講師活動、創作及び運動機能維持等の活動）

入浴活動	月1～2回・30分（希望制、身体整容と気分転換を兼ね、施設内浴室で実施）
------	--------------------------------------

分析・課題

- 利用者の興味・関心、体力面、特性・相性に応じてグループ分けをし、各種活動の提供をした。より積極的に参加できるよう、活動提示の仕方や環境づくりの検討が必要である。
- コロナ禍で外出行事を中止していたため、飲食店での会食や1日通しての外出活動を経験している職員が少なかった。その為、規模を縮小せざるを得ない場面もあった。今後、職員の経験値を養うためにも継続して行事を行う必要がある。
- 職員と各教室講師との交流が少なく、お互いの意図を確認し合う場面が足りなかった。日頃からのコミュニケーションや定期的な振り返り・意見交換等が必要と思われる。

3 生産活動

結果の概要

- 企業からの受注（ねじの組み立て・採便管の封入）により、年間を通して安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。
- 毎週2回、古紙回収作業を実施した。
- 調布市福祉作業所等連絡会の共同受注により、ふくしの窓のポスティング作業を実施した。
- 調布市希望の家が受注している公園清掃を一部協力して行った。

実績等

企業等からの受注	ねじの組み立て、採便管の封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓）

分析・課題

- 利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として、全ての利用者に何かしらの作業活動を提供することができた。
- 企業等からの受注作業だけに頼ることのないよう、施設内で行う新たな活動も創出されているが、まだ安定的なものではない。販売可能な自主製品作成含め、引き続き検討が必要。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食、刻み食、おかゆや軟飯に対応して提供した。
- お楽しみとして月1回の出前や、「ミニ調理」（お楽しみ調理）を実施した。
- 令和3年度までは、感染症対策として「ミニ調理」の準備工程は職員のみが行っていたが、マスクやビニール手袋の着用が可能な利用者に関り、以前のように準備工程から関わってもらった。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
カレーの配達	月1回（第3水曜日）、市内のかれーやより配達。
テイクアウトの実施	月1回／近隣の飲食店から選択制で注文を取りテイクアウトを楽しむ。

分析・課題

- 当日欠席があった場合、弁当業者へその都度キャンセル連絡の対応を行っていたが、そうした状況もあって、時に発注数が合わないことがあった。今後誤りが発生しないようなシステムやルールの検討が必要。
- 出前の日（テイクアウト）では市内の個人経営の飲食店を中心に取り入れ、地域への還元と希望の家や障がい当事者を知っていただく機会になればと意図したが、どの程度その効果があったかは不明。
- 「ミニ調理」のメニューについて、特に検討することなく前年度のものを踏襲した。利用者のニーズや状況に合わせて、変更も検討する必要があった。

5 健康診断・健康管理

結果の概要

- 健康相談を5回実施し、必要に応じて医師からの助言を利用者家族と情報共有した。
- 健康相談には家族の同席を勧め、その際の相談から、家庭での課題を共有する機会となった。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通して利用者の状態推移を把握した。
- 看護師による月1回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施した。また、状況によっては血圧測定や血中酸素濃度の測定を行い、利用者の体調変化の把握に努めた。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診等の助言を受けた。
- こまめな手指消毒の促しや施設内の換気等を行った。また、人の手が触れる箇所や共有使用される物品等を適宜、消毒清掃した。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。半期に一度、交換を行った（薬の形状によっては3ヶ月に1回）。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断 （多摩川病院）	5月13日／施設内で身体測定、検尿（自宅にて採尿）、胸部X線、血液検査、血圧測定、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査を実施。40歳以上の利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定 （看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。10月27日に施設内で実施。
歯科健診（調布歯科医師会）	7月20日に施設内で実施。
健康相談（嘱託医）	年5回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談およびアドバイス。
PCR検査	施設内で医師立ち合いのもと、6月7日、9月8日に実施。

その他、体調不良者に対し抗原検査等を行った。

分析・課題

○嘱託医と連携をとり、家族や職員からの相談を通して、利用者の健康管理に役立てた。利用者のわずかな体調変化にも気づき対応していけるよう、今後も職員間での情報共有と嘱託医との連携を図っていく必要がある。

6 当事者活動の支援（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

7 送迎事業

結果の概要

- 希望する利用者を対象に実施した。令和4年度は全利用者が送迎を希望した。
- ショートステイ等を利用する場合は、受け入れ先への送迎を行った。
- 利用者や家庭の状況によって、個別送迎に対応した。

分析・課題

- 各利用者の特性や相性等を鑑みながら、乗車位置や送迎ルートを設定しているため、ワゴン車 4～5台使用し、内1台は2巡運行している。車内の安全・安心を保つために必要な対応だが、送迎に携わる職員が多くなり、勤務体制に支障が生じることもある。
- 職員の始業時間と送迎出発時間が同じ時間であるため、始業前に送迎準備を行っている実状にある。また、始業時に出勤職員が全員揃う時間が取れないため、申し送り事項等の共有が抜けることもある。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(2) サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

分析・課題

- 利用者・家族ともに総合的な感想については満足以上で、概ね前向きな回答が多かった。
- 自由意見等に対しての今後の施設としての対応を示していく必要がある。

(3) 運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	野口 和代	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	矢田部 正文	関係機関（深大寺北町山野自治会）
委員	森井 進次	関係機関（NPO 法人わかばの会）
委員	内藤 和男	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	小島 秀人	調布市福祉健康部障害福祉課係長
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※調布市希望の家運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- その日の振り返りミーティングにおいて、事故・ヒヤリハット・にやりほっと事例などの共有を図り、簡易記録化することで、月に一度それらを振り返る時間を設けた。
- オンライン・オンデマンド配信による研修も多く実施されたため、積極的に参加した。

実績等

研修会等	主催
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
運営管理研修	東京都社会福祉協議会
強度行動障害支援者養成研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
地域福祉コーディネーター等養成研修	東京都社会福祉協議会
職員交換研修（市内事業所間）	調布市福祉作業所等連絡会
サービス管理責任者基礎・実践研修	東京都サービス管理責任者等研修事務局
BCP 策定講座	東京都福祉保健局
リスクマネジメント研修	東京都福祉人材センター
コーチング研修	東京都福祉人材センター
苦情解決担当者研修	東京都福祉人材センター
ファシリテーション研修	東京都福祉人材センター
専門研修（オンデマンド配信）	調布市福祉人材育成センター
障害者の家族支援	調布市福祉人材育成センター
安全運転講習	トヨタドライビングスクール
虐待防止研修	法人内研修

※ 上記以外に、社協全体での研修等に参加

分析・課題

- 外部研修に参加した職員からの報告の時間を作りフィードバックを行った。
- 全職員が揃っての研修が法人内研修（虐待防止研修）のみであったため、認識等の共有化を図る機会が少なかった。日常支援の場面に外部の方を招いてスーパーバイズを受けるなど、職員全員で学び合う機会の創出が必要。

(5) 事業・建物管理

結果の概要

- 調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 各設備等の必要な定期点検を実施した。
- 調布市営繕課の助言を受けて、設立後10年目を迎える年で予定していた建物修繕計画を見直し、必要最低限のメンテナンスとして、屋上防水工事、非常用設備の蓄電池・照明機器の交換、インターホン設備の交換を実施した。

(6) 危機管理体制の整備（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

9 地域への働きかけ

結果の概要

- 12月14日に予定していた「地域のつどい」は、「みんなでクリスマスを楽しもう！」と銘打って利用者みんなで集めた松ぼっくりや、庭で育てたラベンダーを使った工作や、ピニャータゲームといった限定イベント等を企画していた。しかし、12月に施設内で新型コロナウイルスによるクラスターが発生したため急遽中止とした。
代わりとして、用意していた材料で利用者が松ぼっくりツリー、ラベンダーサシェ、クリスマスカードを作成し地域の方々へのクリスマスプレゼントとして配布した。
- 地域の自治会パトロールへの参加等、地域住民との交流を進めた。

分析・課題

- 「地域のつどい」は、近くの図書館や保育園等にも広報をしていたため、中止の案内が間に合わず当日に足を運んでくださった市民もいた。中止の判断をした場合は、早めの周知が必要であった。実際にいらした方々へはその場で用意のできていたサシェづくりのみ体験していただいた。
また、当日参加予定だった深大寺保育園の年長クラスへは後日利用者がプレゼントを届けており、年度末に子どもたちから直接お礼の手紙をいただいている。
イベント自体の開催はできなかったが、地域との交流を実感することができた。今後も、感染状況に左右されずに開催できる地域交流イベントの検討が必要である。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 利用者の年齢や体力面、特性に応じた個別支援計画を作成し、それに基づき日中活動や作業を行った。
- 通常では複数で活動するためペースを他者に合わせる事が多くなる利用者に、職員とマンツーマンで活動する機会もつくる等、個々に必要となる支援を考え取り組んだ。
- 状況に応じて個別送迎を行った。また、家庭の事情に合わせ延長利用にも対応した。

分析・課題

- 利用者個々の能力・状況に合わせた新たな個別活動も色々と創出されたが、定番化されておらず、安定的な活動としてより整えていく必要がある。

(2) 広報（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- ボランティアや協力員に、利用者支援やプログラム活動のサポートをしていただいた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。
- けやきの森学園からの実習生の依頼はなかった。

実績等

行事・活動	人数	内容
水泳教室	1人	利用者の付き添い
日中活動	1人	利用者の付き添い
園芸作業	1人	園芸
水泳・ダンス・音楽・ジャンベ教室講師	5人	専門協力員
社会福祉士実習生	0人	依頼なし
府中けやきの森学園からの実習生	0人	依頼なし
合計	16人	